

報 告 書

中医学研究部 兵頭明

件 名	第 2 回北海道鍼灸専門学校学術講演会での講演報告
報 告	<p>北海道鍼灸専門学校から第 2 回北海道鍼灸専門学校学術講演会の講演依頼があり、11 月 22 日午前 10 時～15 時まで「やさしい中医学の総て（基礎と臨床）～高齢者医療の中での鍼灸の果たせる役割」というテーマで講演を行なった。午前は中医学の診断から治療までのシステム論を紹介し、午後は高齢者医療のなかで果たせる鍼灸の役割と題して、脳血管障害に対する鍼治療、高齢者に多く見られる誤嚥や転倒に対して、どのような鍼治療でどのような結果が出せるか、また認知症の予防・改善に対する中医学的な病態観にもとづいて、どのようなアプローチが可能か、自分の取り組みと天津での取り組みについて具体的に紹介を行なった。</p> <p>認知症に対しては認知機能だけをみるのではなく、中医学的に全人的に 1 人 1 人の患者さんをとらえてアプローチすることの重要性について説明を行なった。絶えずご高齢者の ADL と QOL の両面を同時に考慮した上での舞浜倶楽部での取り組みについても紹介を行なった。</p> <p>実技指導においては、「補瀉手技は今日のトレーニングにより誰でもできる、上手いか下手かの違いがあるだけだ」との説明後、参加者全員に実技指導を行ない、和鍼と中国鍼を同時に体験してもらい、治療目的に応じた鍼の選択、病状の重症度の違いに応じた刺激量（ドーズ）の決定の仕方等について体験をしてもらった。</p> <p>当日は 100 名近い卒業生、学生が参加し、また原田泉学校長、西嶋事務長、社団法人北海道鍼灸師会の大湊会長、稲垣副会長、森常任理事等の先生方も熱心に受講されていた。</p> <p>講演の最後に、北海道における高齢者医療の一翼をささえる鍼灸の役割、そしてそれを推進していく上での伝統校としての役割と使命について全参加者と相互に確認を行なった。</p>
